# 研究だより

2019年 7 月 26日
NO. 9
3年担任

## 「課題づくり」と「つなぐ」ことの難しさ

３年生の算数「あまりのあるわり算」の単元で授業を行った。今回の授業を通して学んだことは、次の２点である。

１つ目は、課題づくりの難しさである。

本時の共有の課題を「１まいの画用紙からアのカードを８まいつくることができます。アのカードを５０まいつくるには、画用紙は何まいひつようですか」とした。これは、次のジャンプの課題「１まいの画用紙からイのカードを６まいつくることができます。アのカード６０まいとイのカード５０をつくるには、画用紙は何まい必要ですか。一番少ないまい数を答えなさい」につなげるために、「あまり」が足りない数を表しており、それを補うために、＋１する必要があることに気づかせるための課題として位置づけていた。授業前には、この共有の課題は、児童が時間をかけずとも答えを求めることができると想定していた。しかし、実際には児童が答えをもとめるまで時間がかかり、なかなか理解が進まなかった。その要因として考えられるのは、次の２点である。

①カードを作ることがイメージしにくかった点。子どもが問題場面のような経験をしたことがなく、問題場面が想像できなかったのである。子どもの経験があり、イメージしやすい場面を設定するほうがよかったのかもしれない。例えば、１９人の子どもを３人ずつの班に分ける場面などである。

②問題場面に出てくる単位のわかりにくさがあった点。今回は分ける前にでてくる画用紙の単位「枚」と分けたあとの一つのカードの単位「枚」が同じであった。ジャンプの課題につなげるためにこの共有の課題とした。しかし、単位が同じであったため、グループでの話し合いの際に、互いが何をさしているのかわかりにくくなってしまった。それぞれの単位が異なっていれば、こうしたわかりにくさは生じなかった。以上の２点を踏まえた課題づくり、課題設定が必要であった。

２つ目は、子どもの考えを「つなぐ」ことの難しさである。

昨年度の授業研では、グループの中で子どもたちを「つなぐ」ことについて学びを得ることができた。グループの活動がどのように進んでいるのかを教師がみとり、グループ内の誰と誰をつなぐのかを考えながら、授業を行ってきた。本時の授業を通して、全体で子どもの考えを「つなぐ」ことの難しさを感じた。事後研で班での活動が行き詰まり、まわりの班の様子を気にする子どもの姿があったことが話題となった。そうした子どもが出している「つながりたい」というサインを捉え、適切なタイミングでグループでの活動から全体での学び合いへとうつることで学びはより深まるのであろう。しかし、教師が「つなぐ」タイミングを見極めることは容易ではない。自分の今後の課題として、日々の授業の中で研鑽を積んでいきたい。